Japanese Association of Educational Psychology

測定・評価 1 (701～708)

座長　柏木繁男・村田　茂

701 Landis 自我境界尺度に関する研究（その 1）
小曽根病院　中沢　清

702 The Existential Study の研究(1)—因子分析的研究—
関西学院大学　宮川治樹

703 Ambiguity Tolerance との二分化傾向について
関西学院大学　吉川　茂

704 加算作業における制御偏差のベーズ論的研究
東洋大学　柏木繁男

705 確信度を考慮に入れたテストの採点法
東京大学　杉山正明

706 樹形連合法による意味空間(1)—SD 法の意味空間との比較—
筑波大学　堀　啓造

707 教育心理技法としての関係発展評価法
お茶の水女子大学　松村康平

708 PREB 学習レディネス診断検査の妥当性
国立特殊教育総合研究所　志田倫代

このセクションの 8 つの発表のうち，701, 702, 706 および 708 の 4 つは，心理学的測定空間の探索と確定に関する潜在特性の推定と確認を扱っている．701 では，Landis の自我境界尺度において扱われた 2 極対概念透過—不透過の確定が多重因子分析的にみて妥当しないことが強調された．また，自我境界に対する Landis と Feden との関連性より dynamic な自我境界の測定可能性等について討議された．702 の Thorn による ES 尺度の飜案を多重因子分析的に確定する試みに対し，直接バリマックス因子解が採用されているため因子寄与率の水準化が低められていることに対する指摘がなされた．また，尺度に使われている"反映"と言う概念のよりくわしい説明や質問の仕方による反応の変化の可能性についての疑問が提示された．706 では，新たに提案された樹形連合法のクラスター分析による意味空間の確定がなされ，しかも，既に古く行われた SD 法による直交意味空間との比較がなされた．その際比較のための相関分析的手続に対する疑問も提出され，関連討議がなされた．708 の研究は確定的多重因子分析的研究である．方法論的には，むしろ部分 Procrustis 法のようなものを採用すべきこと等の意見が出されたし，若干のテストの内容説明に必要な概念への質問も出された．

704 および 705 では，確定された心理学的特性の評価と測定に関する発表で，より一次元的分析に関係している．704 の場合は，従来のテスト理論で扱われている潜在特性理論における尤度 1 (o/y) を"仮定的"なものから観測される"実証的"なものとする可能性を，加算制御過程でとらえようとする試みである．この点に対し，1 (o/y) は決定すべきもので実証可能とすることができるかどうかの疑問が提出された．これに対し，潜在特性の仮定がより制約的であるのに対し，加算制御の場合は 1 (o/y) が比較的安定的であり，実証可能性を具えていることが指摘された．705 では，テスト受験者の自分の得点に対する確信度による重みづけの方式の有効性について論じられた．結果的には，その有効性があまり高いものでないと言うことであったが，たとえば，ティーチング・マシンやステップ・ユーダーのような段階的学習習得の過程やベーズ決定のような逐次改良学習における場面への適用により，この発表内容の実用化が可能とならないか等が質問された．また，直接的には，式 (2) における誤答得点への重みづけの理論的根拠，また，偶然解答排除に適した採点方式，それに，確信度評定に一種の反応のセットのようなものの表われる可能性についての疑問が呈出された．なお，703 における発表は，心理学的測定における反応の二分化傾向の発生に関するものであった．

707 の発表は，関係の存在としての人間や自己評価に対する測定と評価に関する根本的問いかけを主体とした，より基本的で根源的な発想の提案であった．

（柏木繁男・村田　茂）

NII-Electronic Library Service